

# 2026 年度

## 一般選抜Ⅱ期

### 選択科目

試験時間 9：30～11：30（120分）

|       |        |
|-------|--------|
| 1. 国語 | 14 ページ |
| 2. 英語 | 7 ページ  |
| 3. 数学 | 4 ページ  |

#### 注意事項

- ①試験開始の指示があるまで、問題冊子の中を見ないこと。
- ②出願時に選択した科目を受験すること。
- ③問題冊子の印刷不鮮明やページの落丁・乱丁等があった場合は、手を高く挙げて監督者に知らせること。
- ④試験終了の指示があったら、直ちに解答をやめること。
- ⑤試験終了後、問題冊子は持ち帰ることができます。

### 健康科学大学

健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学コース 作業療法学コース  
人間コミュニケーション学科  
看護学部 看護学科

# 1. 国語

※国語の問題は、全 14 ページです。

## 国語

1

次の文章は小浜逸郎の論説『「弱者」とはだれか』の一説である。これを読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

公共的な乗り物にシルバーシートなるものが出現してから、もうずいぶんときが経つが、私は、これが出現したときにAかなり違和感を抱いた。おそらく少なからぬ人が疑問を感じたのではないと思う。当時の（ア）トウシヨなどをあさってみれば、賛否両論でにぎわっていたはずである。しかし、今では既成事実慣れてしまつて、ほとんどだれもこのシステムに異を唱える人はいないようだ。だが、私の違和感は依然としておさまらない。

現在は「優先席」と名指しされて、老人だけでなく、障害者、妊婦、小さい子ども連れの乗客などの絵記号シールが貼つてあるのを見かける。また、「お年寄り、体のご不自由な方、小さいお子さんをお連れの方には席を譲りましょう」といった放送が繰り返し流れてくることもある。

この場合、問いたいのは、これらの「弱者」をいたわる心情そのものの是非ではない。こういう枠組みをわざわざルールのように設定して、あなた方一般乗客は、どんな場合にも絵記号シールに該当する人を優先する心がけを持たなくてははいけないのですよと啓蒙しているような、押し付けがましい姿勢についてである。

私たちは、ごく普通の人間性を備えていれば、たまたま街や乗り物のなかで困っている人に出会ったときに、思わず援助の手を差し伸べるものだ。

もちろんその意志の発動にはそれぞれに限定条件がある。その種の人がいることに気づいたとき、私たちのなかにはいろいろな心理が働く。たとえば、自分からは距離が遠すぎるから、近くの人がやつてくれないだろうかとか、わざわざ人前で「善行」を示すのはスタンドプレイのように見えて気恥ずかしいとか、こつちは今仕事でくたくたなのだから他人になど構つていられないとか、この人は席を譲るほどいたわられるべき人だろうか、かえつてプライドを傷つけられるのではあるまいか、など。

また、人間性といつてもいろいろである。まわりによく気配りしている人もいれば、自己中心的でありまわりのことなど考えていない人、親切の押し売りをしたがる人など。

Bこれらは、ときに応じて複合的に作用して、席を譲る、譲らないの選択を条件つける。しかし、赤の他人が肩を触れ合う距離で接触しなくてはならない電車のなかのような空間では、こういう限定条件は、それが他に迷惑を及ぼすものでない限り、そのまま認められるべきなのである。「みんな、弱い人には優しい同情心を持つように常に心がけましょう」などという思想は、日常の個々の具体的な場面では、動機の一つとしての意味しか持たず、またそれ以上の強制的な意味を持つべきではない。

よく、「今の若い者は眼の前に年寄りがいるのに、席も譲らない」などと、人心の荒廃ぶりを嘆く向きがある。たしかに都会では、個人主義的傾向が進んで、眼の前に何があつてもなるべくかわりたくないという心理が、若者だけでなく、私たち一般に浸透している側面はある。それには、見ず知らずの他人に対する警戒心も手伝っているだろう。

しかし、不屈者はいつの時代にもいる。また一方には、「茶髪、ピアスのおにいちゃんが、とても優しく親切にしてくれた。今の若者、捨てたもんじゃない」といった経験談のたぐいもたくさんある。そういうわけで私自身は、明確な「人心の荒廃」の（イ）チヨウコウなどあまり信じないのである。逆にかつての時代が、そんなに良識あふれた時代だったとも思えないからだ。

人間のこういう部分というのは、あまり変わらないと思う。優しい人、冷たい人、積極的な人、消極的な人、いろいろいるが、眼の前の事態が深刻であれば、それに応じて援助の行動はそれなりにあらわれるものだ。重大な交通事故が起きたときや阪神・淡路大震災のときの人々の対応などを見ると、そのことがよくわかる。

C シルバーシート、優先席のようなことさらな区画づけは、かえって、自然な接触による自然な同情心の発露を抑制する効果を生む可能性の方が高い。人々は、そういう区画づけの前に立たされると、概して「そこに座りたいという意に反して、仕方なく規則に従う」という心理的な反応しか示さない。

他の席がふさがっていて、立っている人がけっこういるのに、優先席だけは空いているという光景にしばしば接することがある。これは、優先席に座ること、その該当者が乗り込んできたときに規則に従って立ち退かなくてはならない心理的な負担感を、あらかじめ避けようとするのである。多くの人が、そこに空席などはないものと見なすのだ。そのことによつて、かえって人は、「弱者」との個別の接触を避けることになり、そういう問題を自分で考えたり自らの意志で行動したりするきっかけを失うことになる。

私自身は、「優先席」だろうとそうでなかろうと、席が空いていればかまわずに座ることになっている。「優先席」に座っていて、該当者が来たら、よほどのことがない限り譲るだろう。その心づもりは、普通の席に座っている場合も基本的には同じである。ただしこれは正直なところ、すでにそういう区別がなされているという事態に対するかなり意識的な対応であつて、「優先席」に座っている場合に、その「規則」的なものから拘束されている窮屈な感覚をまったく抱かないと言つたら嘘になる。

つまり「優先席」の存在そのものが、自然な同情や親切心の発露を封じ込め、かわりに、気後れやこわばりの意識を誘発しているのだ。この種のものはない方がいいのである。あるいは、あつてもなくても同じであつて、そういう配慮のためにお金や神経を費やすのは無駄なことである。こういう「装置」を外側にセツトしておくことで、「弱者」へのいたわりの心が成長するような啓蒙的效果が期待できるなどと企画者が考えているとしたら、D それは、大きな間違いだ。「お年寄り、体のこ不自由な方、小さいお子さんをお連れの方には席を譲りましょう」の放送のたぐいに至つては、ただうるさいだけで、その説教の無意味さにはうんざりする。たぶんだれもまともには聞いていないだろう。

また街を歩いていて気づくことだが、最近新しくできた地下鉄などで、ホームをすつぱりガラス張りにして、電車が来たときだけドアが開く仕組みになっている駅を見かける。何のために高いコストをかけてこんなことをするのか、うつつうしい限りである。

ホームから落ちると想定されている人は、不注意な人、酔っ払い、自殺者、盲人、小さな子どもなどだろうか。不注意な人は自分が注意すればいいので、まともな神経の持ち主なら、ホーム

と(ウ)ギドウの間が危険なことくらい百も承知のはずである。酔っ払いは、落っこちるほど酔っ払うのがいけないのだ。自殺者は、ほんとうに死ぬ気なら、いくらでも他の方法で死ぬだろう。盲人対策としては、今までホームに点字ブロックを埋め込んできたのだから、それで十分である。小さな子どもは、親が責任を持って保護すればすむ話だ。

いったい、これまで実際にどれだけの人がホームから落ちたために、こういう設計をしなくてはならないという結論に達したのだろうか。人々の自己責任に信頼をおかず、何でも「弱者」を手厚く保護しさえすればいいという、人をバカにしたおせっかいな思想である。

ここで、誤解を受けないように断っておきたいが、私は、列車のなかや駅などの公共空間に、いわゆる「弱者」のために設置された施設が、みな無駄であるなどと言いたいのではまったくくない。それらは、いいものもあれば、そうでないものもある。そしてそこには自ずと、その設計思想の善し悪しが反映している。

いいものというのは、障害者や老人だけではなく、重い荷物や赤ん坊を抱えた人などが、これらの公共空間を移動するのに実質的に役立つような施設である。たとえば、最近の新しい駅にはエレベーターが設置されている例があるが、これなどは大変いい施設だと思う。

しかし、「優先席」をただ指定することや、「弱者を優先しろ」という放送をただ流すことなどは、何ら「弱者」や「困っている人」の、その困っている点に対する実質的な(エ)ホシヨウとなっていない。座席が特別便利にできているわけではないし、放送を聞いて「弱者」が快適になるわけでもないからだ。かわりに、普通の人々に、窮屈な道徳的圧迫感を与えるだけである。また、ホームをガラス張りにしてしまうような(オ)カジヨウな保護思想も問題である。生きていく上でだれもが必要とされる自立心、危険や不測の事態に対して自ら管理するという心構えを、封じてしまうからである。

(本文中の小見出しを省略した。)

問 1 傍線部 (ア) ～ (オ) の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5。

- (ア) トウシヨ 1
- ① 並木道にガイトウを設置した
  - ② 不景気で会社がトウサンする
  - ③ 新型車にエンジンをトウサイする
  - ④ 手品でカードをトウシする
  - ⑤ 将来のために教育にトウシする

- (イ) チヨウコウ 2
- ① 寄付額がイチチヨウエンを超えた
  - ② 山のサンチヨウに立つ
  - ③ ツウチヨウを確認する
  - ④ 明日のチヨウカンに記事が出る
  - ⑤ チヨウコクトウで石像を作る

- (ウ) キドウ 3
- ① 新たなキバンを作る
  - ② 人生のキロに立つ
  - ③ 歴史のキゲンを定める
  - ④ その行動はシヨウキを逸する
  - ⑤ 出来事をギロクする

- (エ) ホシヨウ 4
- ① シヨウメイ写真を撮る
  - ② 物を壊してベンシヨウする
  - ③ 車がコシヨウした
  - ④ 国会は予算案をシヨウニンした
  - ⑤ 少子高齢社会にケイシヨウを鳴らす

- (オ) カジヨウ 5
- ① 国家間でジヨウヤクを締結した
  - ② 願い事がジヨウジュした
  - ③ 税金のヨジヨウキンを国民に給付する
  - ④ ジヨウシャケンを提示する
  - ⑤ お互いにジヨウホして案をまとめた

問2 傍線部A「かなり違和感を抱いた」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

- ① 優先席の設置は鉄道会社にとって大きな経済的負担を招き、結果として効率を低下させるものだから。
- ② 優先席の存在は市民の自由を不当に制限し、公共空間での行動を必要以上に縛ることになるから。
- ③ 優先席や放送の仕組みは、善意の行動を当然の義務として押しつけているように感じられ、人々に不自然さや居心地の悪さを与えるから。
- ④ 弱者への思いやりは社会に不要であり、制度として定めること自体が根本的に無意味な行為だから。
- ⑤ 優先席や放送の仕組みは、人々の自然な親切心を発揮する機会をむしろ奪い取り、結果として思いやりを妨げるものだから。

問3 傍線部B「これらは、ときに応じて複合的に作用して、席を譲る、譲らないの選択を条件づける。」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- ① 席を譲る行為は、社会の規則だけに従って決まる単純な行動であり、個々の状況や心理には影響されないということ。
- ② 席を譲る行為は、誰もが一律に実行すべき行為であり、具体的な場面の違いに応じて左右されることはないということ。
- ③ 席を譲る行為は、距離の遠さや気恥ずかしさ、疲労感や相手のプライドへの配慮などの条件に制約され、その都度判断が変わるということ。
- ④ 席を譲る行為は、援助の意思を示せば必ず相手を不快にさせるため、そもそも控えるべき行動であるということ。
- ⑤ 席を譲る行為は、複数の心理的要因が同時に作用し、それらが組み合わさって譲るかどうかの選択が条件づけられるということ。

問 4 傍線部 C 「シルバーシート、優先席のようなことさらな区画づけは、かえって、自然な接触による自然な同情心の発露を抑制する効果を生む可能性の方が高い」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 区画づけは弱者に配慮する仕組みとして設けられているが、制度として強制されることでかえって人々に心理的な負担を与えてしまうということ。
- ② 区画づけは社会秩序を維持するために不可欠なものであり、人々の行動を統制する仕組みとして一定の役割を果たすということ。
- ③ 区画づけは経済的効率を悪化させ、公共交通の運営に無駄なコストを生むだけであり、社会的な意味を持たないということ。
- ④ 区画づけは弱者への親切心を喚起する仕組みであり、むしろ人々の援助行動を積極的に引き出す効果を持っているということ。
- ⑤ 区画づけは弱者に配慮する仕組みであるにもかかわらず、制度として強制されることで人々の自然な親切心をかえって萎縮させてしまうということ。

問 5 傍線部 D 「それは、大きな間違いだ」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① 啓蒙的な仕組みは、弱者へのいたわりを育てる効果を持たず、存在してもしなくても大差がないため、その設置は根本的に意味をなさないということ。
- ② 啓蒙的な仕組みは、人々の親切心を自然に育てる有効な方法であり、制度の導入は望ましいということ。
- ③ 啓蒙的な仕組みは、社会秩序を維持するために不可欠であり、人々の行動を統制する必要があるということ。
- ④ 啓蒙的な仕組みは、弱者へのいたわりを育てないばかりか、規則に従わねばならない窮屈さを生み、親切心を萎縮させてしまうということ。
- ⑤ 啓蒙的な仕組みは、若者には一定の効果を持つが、大人にとってはほとんど意味を持たないということ。

問 6 本文の内容に照らして不適当な記述を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

10。

- ① 若者を中心に人心の荒廃が進んでいるとよく言われるが、実際には昔も今も人間の性質は大きく変わらないと筆者は考えている。
- ② 優先席や「弱者をいたわりましょう」という放送は、多くの人に無視されがちだが、一部には親切心を促す効果があるとされる。
- ③ 筆者は、重大な事故や震災の際に人々が自然と援助行動を見せることを例に挙げ、人間の善意は状況次第で表れると述べている。
- ④ 筆者は、公共空間の施設には良いものとそうでないものがあり、エレベーターのように実質的に役立つものは高く評価している。
- ⑤ 筆者は、ホームのガラス張り装置のような大げさな保護は、人々の自立心を封じると批判している。

2

次の文章は石田光規の随筆『自己決定の落とし穴』の一説である。これを読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

自分のことは自分で決める。今の時代、そんなことは当たり前と思うかもしれませんが。しかし歴史を振り返ると、そのような時期は長くなく、私たちは自分よりも集団に重きをおいた生活をしてきました。私たちが生きていくためには、集団で協力し、集団のルールにしたがわなければならなかったのです。

ゆえに、自分のことを自分で決めるというのは、実はそれほど簡単ではありませんでした。自分のことを自分で決めるには、自身の決定を尊重してもらえらるほどの環境が整わねばならないのです。とくに重要なのが物的な条件と思想的な条件です。

自己決定を題材とした本書では、まず自己決定が可能になる条件を整理しましょう。それを踏まえ、私たちが「自分で決めること」を求められる社会を生存していることを確認します。

自己決定を可能にする物的な条件とは、端的に言えば物的な豊かさのことです。人びとが「個人」として自己を確立し、意見を述べるためにはあるていどの豊かさが必要になります。しかし、人と協力しないで済むほどの豊かさは、そう簡単に手に入りません。ゆえに私たちは、先ほども述べたように、歴史の大半において集団で協力し、集団のルールにしたがって生きてきました。

道具、インフラなどあらゆるものを共同で管理し、協力をしながら過ごしていく。そのような生活には厳格なルールが存在し、個々人が自らの好みに応じて行為を選択する余地はあまりありませんでした。

資本主義経済がもたらした豊かさは、多くの人を集団の（ア）呪縛から解き放ちました。ものが豊かになり、サービスが充実していけば、誰かと協力したり、調整したりする必要は大きく減じられます。

中略

無数の番組を、時間を問わず見られるようにしたサブスクリプション・サービスは、個々人のテレビへの制約をさらに減らしました。サブスクの登場前、いくらテレビが個人所有になっても、見られる番組は、その時間帯に放送されている番組、あるいは録画しておいた番組にかぎられていました。

サブスクの登場により、私たちは放送時間に関係なく、無数の選択肢のなかから見たい番組を視聴できるようになります。まさに個人専用テレビの登場です。

豊かさは私たちをさまざまな制約から解き放ち、個々人の選択肢や欲求を肥大させる効果があります。それにより私たちは、お好みのものを自由に編成できるようになったのです。

もうひとつの思想的な条件とは、個人を尊重する思想の浸透です。いくら豊かになっても個々人の選択肢が増えたとしても、彼・彼女らの自由な選択と決定を許容する文化的な下地がなければ、物事を自分で決められる社会にはなりません。豊かになっても思想や信条を統制される国で、自

分のことを自分で決めるのは難しいものです。

もともと、集団よりも個々人の考えや決定を尊重する思想は、ヨーロッパを起点に、他の地域にじわじわと広がっていきました。ヨーロッパでは国や権力に対抗する存在としての自己および自己の決定に焦点が当てられたのです。

しかしながら、個々人の決定を尊重する思想は、すぐに多くの地域に広まったわけではありません。とりわけ、「集団主義的」と言われてきた日本では、個々人の考えや決定を尊重する思想はなかなか広まりませんでした。

むしろ西欧列強の脅威にさらされた日本では、近代化を達成するために集団的な特質を活用しました。すなわち、天皇を中心とした「国家」として国をまとめる手法をとったのです。結果として、個々人の主義や信条はかなり押さえつけられました。

第二次世界大戦の敗戦を経て、日本にもアメリカ型の民主的価値観が入ってきました。それとともに、個人の主義や信条などを尊重する思想も広がっていきました。その後も日本社会の集団的体質についてはたびたび指摘されるものの、(1) 大局的には、日本社会は個人を尊重する社会に向かっていると言つてよいでしょう。

ここまで説明した物的条件と思想的条件が高度に満たされ、社会の中心単位が個人になった社会を「個人化社会」と言います。この概念は、ウルリッヒ・ベックという社会学者が一九八〇年代に提唱しました。日本では一九九〇年代後半あたりから、本格的に個人化社会に突入したと言われています。

個人化した社会では学校や職場などの中間的な集団の力が弱まるため、所属集団や周りの人から「このようにせよ」と言われることがあまりありません。どのようなことをやるか、どのような人とつき合うかは、個々人が自分で考えて決めていきます。

この点について進路を例にとつて考えてみましょう。個人化する前の日本社会には、いわゆる「定番のライフコース」とでも言うものがありました。男性ならば、学校卒業後に就職し、そこから数年を経て結婚し子どもをもち、稼ぎ手として仕事を全うする。女性ならば、いわゆる一般職に就職し、しばらく働いた後に結婚・退職し、子どもが生まれたら、家庭生活を中心に据えていく。このようなコースが存在していたのです。

しかし、個人化が進展した日本社会には、いわゆる「定番」のライフコースはありません。個々人の進路は、彼・彼女らが自身で決めていかねばなりません。まさに、選択と決定により人生が成り立っているのです。したがって、個人化した社会とは、自分のことを自分で決めるよう強く求められる社会とも言えます。

ここで重要なのは、個人化社会が「自分のことを自分で決める」ことを「社会」として「個人」に強く求める、ということです。W これはなかなか皮肉な状況をもたらします。「自分で決められる」という言葉には、自由で軽やかな印象があります。たいていの人は、誰かに命令されてしぶしぶ何かをやるより、自分で決められた方が気分もよいでしょう。しかし、「自分で決める」ことを社会から半強制的に求められるとなると話は別です。

個人化した社会の人生は個々人の選択と決定で成り立っています。このような社会では「選択をしない」「決定をしない」という「決定」はできません。というのも、選択をしないことも決

定をしないことも、「選択をしない決定」「決定をしない決定」といった形で、個々人の選択の結果と見なされてしまうからです。先ほどの進路の例で言えば、「就職活動をしない」という行為は、「就職活動をしないという決定」だと見なされてしまうのです。

こうなると、「自分で決める」行為の緊張感は一挙に高まります。というのも、私たちは、自ら決めたことに対して、責任をもつよう強く求められるからです。そうしたなかで私たちは自らの来し方を決定しつつ、人生を歩んでいきます。

それでは、私たちはどれだけ好きなように物事を決められるのか。決定にまつわる責任とは何なのか。以下ではその点について考えていきましょう。

×「自分で決める」というのと、「自分で決められる」というのは、似ているようでかなり違います。前者は何らかの行為について決断を下しているだけですが、後者は決断の裏に制約があることを想起させます。「自分で決められる」の背後には「決められない」こともいっばい隠れているのです。

実際のところ、すべての人がやりたいことをやるだけでは、社会はうまく回りません。特定の行為を実行するにあたり、外からの制約がなく決断できることを、かりに「自己決定の権利」としておきましょう。

この自己決定の権利には、一定の拘束が課されます。有名なのがイギリスの哲学者、ジョン・スチュアート・ミルの提唱した自由論です。彼は「他人に危害を加えない」がぎり本人の意志を尊重すべきと説きました。

ミルの提唱した「危害原理」は、自己決定の範囲を検討するうえで、今も重要な基準線となっています。たしかに、ごちそうがほしいからと言って、他人が食べているものを奪ったり、ストレスを発散したいからと言って、突然殴られたりする社会ではたまりません。

この定義は一見するとわかりやすく、(ウ) 妥当なもののように思えます。しかし、よくよく考えると、Y かなり曖昧な定義でもあります。

そもそも、「他人への危害」というのは、どのような行為を指すのでしょうか。先に挙げた暴力や略奪ならば、被害がわかりやすく直感的にも理解しやすいでしょう。しかし、「他者への危害」に含まれるのはそれだけではありません。ハラスメントや多様性への配慮を求められる社会では、精神的なダメージも「他者への危害」と考えられます。

とはいえ、ある行為や発言が、相手に対してどのくらいの精神的なダメージを与えるか測定するのは容易ではありません。物事の受け取り方は、行為や発話の状況、受け取る相手により異なるからです。相手によかれと思つて行つたアドバイスが、相手を傷つけてしまうこともあります。

Z 個人化した社会では、結婚や出産など、人生にまつわる一連のアドバイスはタブーとなりつつあります。

(本文中の強調及び見出しは省略した。)

問 1 傍線部(ア)～(ウ)の表現の本文中の意味内容として最も適切なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 11 ～ 13。

(ア) 呪縛

11

- ① 恐怖で身動きがとれなくなること
- ② 柔軟な考え方ができること
- ③ 制約やルールにとらわれること
- ④ 解決の糸口が見つかること
- ⑤ 自分自身の思い込みにとらわれること

(イ) 大局的

12

- ① 感情や意見を交えずに判断すること
- ② 細かい部分をみて判断すること
- ③ 一つの考えや視点に立って理解すること
- ④ 物事の判断に時間がかかること
- ⑤ 全体を見渡して広くとらえること

(ウ) 妥当

13

- ① 目的に合っていて適切であること
- ② ふさわしくないこと
- ③ 他に比べるものがないこと
- ④ 一貫していること
- ⑤ 成り行きに任せること

問2 傍線部W「これはなかなか皮肉な状況をもたらします」とあるが、その意味の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 個人化社会の到来によって個人が自分で考えて決められるようになった。一見すると自由に選択できる気軽さがあるように見えるが、実際は自分の進路を自分で選択し決定することが強く求められ、選択をしないことさえ「選択しない決定」をしたと見なされてしまうということ。
- ② 個人化社会の到来によって人々は自由に選択できる社会を望んでいたが、実際には自分で選択し決定するにはかなりの労力が必要であり、個人よりも集団を優先する社会の方が定番ライフコースのように社会に期待された生き方があるため気楽であるということ。
- ③ 個人化社会の到来によって自分で決められる生活が当たり前になったが、それには個人の決定を尊重してもらえ環境を整えることが必要で、その一つが「個人」としての自己を確立して意見を述べられるようになることであり、もう一つが社会における物の豊かさであるということ。
- ④ 個人化社会の到来によって個人が自分で考えて決められるようになったことで、それまでの集団の価値観や慣習が薄れ、地域のつながりの崩壊を招いたといえる。結局、進路や人生の選択は個人の選択及び集団のルールのバランスが重要だということ。
- ⑤ 個人化社会の到来によって個人が自分で決められるようになったが、一方で自己決定の社会を可能にしたものの豊かさは、私たちをさまざまな制約から解放し、同時に個人の欲求を満たすための浪費も増やしてしまったということ。

問3 傍線部X「自分で決める」というのと、「自分で決められる」というのは、似ているようでかなり違います」とあるが、これはどのようなことを指してるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 自分で決められないことへの対処に関すること。
- ② 他人任せでなく自分自身で決定すること。
- ③ 自分の欲求をすべて満たすための方法に関すること。
- ④ 自己決定できる範囲に関すること。
- ⑤ 一人ひとりがどれだけ社会に意見が言えるのかということ。

問4 傍線部Y「かなり曖昧な定義でもあります」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 個人の意志を尊重すべき基準について哲学者ジョン・スチュアート・ミルは「他者に危害を加えない」としているが、他者への危害がどこまでを指すのか不明瞭であり、個人の価値観、社会や文化によっても違いため解釈が変わってしまうということ。
- ② 個人の意志を尊重すべき基準について哲学者ジョン・スチュアート・ミルは「他者に危害を加えない」としているが、他者への危害とは身体的な暴力に限定すると明確に決められているということ。
- ③ 個人の意志を尊重すべき基準について哲学者ジョン・スチュアート・ミルは「他者に危害を加えない」としているが、他者への危害の基準は普遍的であり、個人や社会によって変わるものではないということ。
- ④ 個人の意志を尊重すべき基準について哲学者ジョン・スチュアート・ミルは「他者に危害を加えない」としているが、どこまでが他者への危害なのかを指すのかについては時の権力者が決めているということ。
- ⑤ 個人の意志を尊重すべき基準について哲学者ジョン・スチュアート・ミルは「他者に危害を加えない」としているが、どこまでが他者への危害なのかを指すのかについては身体的な暴力及び精神的なダメージの両方から判断すべきであるということ。

問5 傍線部Z「個人化した社会では、結婚や出産など、人生にまつわる一連のアドバイスはタブーとなりつつあります」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 結婚や出産は以前よりも状況が深刻になっているということ。
- ② 人生の選択に関する助言は積極的に行った方がいいということ。
- ③ 人生の重要な決定は社会の規範に合わせた方がいいということ。
- ④ 結婚や出産は個人の意志では決められないということ。
- ⑤ 結婚や出産は個人の決定・選択にゆだねられるということ。

問6 この随筆の主題についての説明として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 

|    |
|----|
| 18 |
|----|

。

- ① 個人化社会は、個人の選択の自由を大切にしているようで、個人の考えや決定を尊重する思想を軽視している。
- ② 個人より集団に重きをおいた社会では、定番とされる生き方が定められており人生に悩む必要はないが、個人化社会になって選択肢が増えたことでむしろ自分らしく生きる楽しみができた。
- ③ 個人化社会は、自分で決めることができる自由を与えているようで、自分で決める責任を強く求めるため、自己決定できるという面と自分で決めたことに対して責任を強いるという両面があり息苦しさを感ずる。
- ④ 個人化社会は、個人の選択と決定で人生が成り立つが、一度選択して決定したことは一度と変えることができない点が差し迫った課題である。
- ⑤ 個人化社会は、誰もが自分の好きなことややりたいことだけを選択して生きることが目指す社会である。

※このページは空白

## 2. 英 語

※英語の問題は、全7ページです。

## 英 語

1

次の会話（問1～問5）を完成させるために、（ ）内に入るものを①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

問1 A: The party was great. Everyone enjoyed it very much.

1

B: Really?

A: ( )?

B: I had to finish my assignment.

A: That's a shame.

- |                            |                         |
|----------------------------|-------------------------|
| ① How come you didn't come | ② How do you feel       |
| ③ How did it go            | ④ How long does it last |

問2 A: Look at this beautiful insect.

2

B: ( )! It might bite you.

A: Really?

B: Yes, it is poisonous.

A: Oh, we should be careful.

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| ① Watch your tongue | ② Watch through |
| ③ Watch me          | ④ Watch out     |

問3 A: I am Dr. Sato. So, what brought you here today?

3

B: ( ).

A: When did it start?

B: Well, it started two days ago.

A: What kind of pain is it?

B: My head is pounding.

- |                       |                                   |
|-----------------------|-----------------------------------|
| ① I came here by bus  | ② I have my handbag               |
| ③ I'm with my husband | ④ I've been having a bad headache |

問 4 A: Which high school did you graduate from?

4

B: Yamanashi High.

A: Oh, me too. ( ) !

I graduated from Yamanashi High School three years ago.

B: No wonder I did not recognize you. I graduated four years before you.

① What a condition

② What a relief

③ What a correlation

④ What a coincidence

問 5 A: I don't know how to use this program.

5

B: Oh, really? I use this program almost everyday.

A: Could you please help me with it?

B: ( ).

A: You are a lifesaver.

① My pleasure

② My favorite

③ My bad

④ My fault

2

次の問い (問 1 ~ 問 10) の 6 ~ 15 に入れるのに最も適切なものをそれぞれ下の  
①~④のうちから一つずつ選べ。

問 1 It is necessary to 6 the student to motivate herself.

① have

② get

③ make

④ let

問 2 Did you see the little boy 7 by those girls?

① bullying

② to bully

③ bully

④ bullied

問 3 The platform was filled 8 a great number of people.

① with

② out

③ to

④ for

問 4 I understand your point to a certain 9 .

① degree

② period

③ time

④ scale

問 5 The doctor showed us viruses he  in Africa.

- ① finds                      ② had found                      ③ has found                      ④ was found

問 6  it were not for music, my life would be boring.

- ① Even                      ② When                      ③ Once                      ④ If

問 7 This clock is ticking .

- ① accurate                      ② accurately                      ③ collect                      ④ collecting

問 8 Never  seen an aurora before, we were so excited.

- ① having                      ② had                      ③ have                      ④ have had

問 9 Let's take a break,  we?

- ① don't                      ② may                      ③ shall                      ④ have

問 10 When she came home, her dog was  on her bed.

- ① laid                      ② lied                      ③ lying                      ④ lay

**3**

次の英文（問 1 ～ 問 5）の下線部①～④のうち、誤りが一箇所ある。誤りをさがし、番号で答えよ。

問 1 Not ① being hungry, she ② went to bed ③ without ④ had dinner.

問 2 They ① kept ② watching movies one ③ after ④ other last night.

問 3 The ① farther he ② went, ③ the ④ narrow the road became.

問 4 We have to ① get his room ② ready ③ to eight ④ in the evening.

問5 I was ① about ② leaving the cafe ③ when my friend ④ arrived.

20

4

次の問い（問1～問5）について、日本語の意味に合うように与えられた語句①～⑤を正しく並べ替えて空欄に入れよ。ただし、文頭にくるべき語も小文字で示してある。解答は 21 ～ 30 に入るもののみを記せ。

問1 もう一度その映画を観ることはできますか？

( ) ( 21 ) ( ) ( 22 ) ( ) watch the movie again?

① it                      ② be                      ③ to                      ④ would                      ⑤ possible

問2 私たちは遅れを取り戻さなければならない。

We ( ) ( 23 ) ( ) ( 24 ) ( ).

① for                      ② make                      ③ up                      ④ have to                      ⑤ lost time

問3 彼はその危険性を知らなかったようだ。

He didn't ( ) ( 25 ) ( ) ( 26 ) ( ) the risk.

① to                      ② aware                      ③ of                      ④ be                      ⑤ seem

問4 ジェニーはなけなしのお金でヨーロッパを旅した。

Jenny traveled to Europe ( ) ( 27 ) ( ) ( 28 ) ( ).

① what                      ② little money                      ③ had                      ④ with                      ⑤ she

問5 この小道はどこにつながると思いますか？

Where ( ) ( 29 ) ( ) ( 30 ) ( )?

① think                      ② this path                      ③ do                      ④ leads to                      ⑤ you

5

次の英文を読んで、問い（問1～問4）に答えよ。なお、\*のついた単語には注がつけ  
てある。

Since ChatGPT, a generative artificial intelligence (AI) \*chatbot, was (a) launched in November 2022, it has gained \*immense popularity. ChatGPT processes human language and generates human-like text responses when users ask questions, seek advice, or engage in conversations with it.

As of February 2025, the number of active users was approximately 400 million worldwide.

According to The Nikkei, the number of Japanese users was approximately 6 million in 2024, which is twice the number of users in the <sup>(b)</sup>previous year. With such rapid \*penetration, ChatGPT has had a significant impact on various fields in society.

According to a survey conducted by \*the National Federation of University Co-operative Association in Japan (2024), about 46.7% of students have used ChatGPT, and 28.2% of non-users wish to use it in the future. Students used it <sup>(c)</sup>as a reference tool for writing papers or reports, and for translation, consultation, conversations, programming, Excel charts, and creating references for job applications or internships.

The initial response from universities expressed concern regarding academic dishonesty, including \*plagiarism. Critics have pointed out the possibility of negative effects on individuals' creativity, critical thinking skills, and judging abilities. The concern is that users will become heavily dependent on the answers provided by ChatGPT, and consequently, would stop seeking other sources of information and developing their own thinking skills. In addition, excessive usage could also potentially weaken students' analytical and summarizing skills. However, these negative effects have not yet been proven using \*empirical data.

( d ), the students who participated in the survey reported many benefits of using ChatGPT. These students claimed that they critically reviewed ChatGPT's responses and subsequently incorporated them into their work.

ChatGPT helps promote information accessibility and is convenient in terms of time management. Furthermore, it is believed that ChatGPT can <sup>(e)</sup>enhance individual productivity and the quality of products. Some students use it as an educational aid because ChatGPT can clearly and easily explain key ideas and concepts.

With the increasing number of users and continual upgrades to ChatGPT, the key to successful \*integration is coexisting with generative AI rather than <sup>(f)</sup>prohibiting the use of such tools. The greatest challenge right now is how best to utilize ChatGPT. We must promote an appreciation of its functions and effective usage while simultaneously raising awareness of its \*vulnerabilities and risks. Issues, such as copyright and excessive dependency, which result in physical or psychological problems, remain unresolved. Users must also understand that ChatGPT may provide inaccurate information that often requires verification. Ultimately, users should have a sense of responsibility and awareness of the related issues, and maintain high levels of ethical standards and critical thinking skills.

注) chatbot: チャットボット、自動的に会話を行うプログラム    immense: 計り知れない  
 penetration: 浸透・普及    the National Federation of University Co-operative Association: 全国  
 大学生協同組合連合会    plagiarism: 盗作    empirical data: 理論や推測でなく、実際の観察や実  
 験を通して得られたデータ    integration: 統合・完成    vulnerability: 脆弱性

**問 1** 下線部の (a)、(b)、(e)、(f) の意味に最も近いものをそれぞれ①～④から一つずつ  
 選び、番号で答えよ。

- |              |            |             |    |
|--------------|------------|-------------|----|
| (a) launch   | ① organize | ② close     | 31 |
|              | ③ start    | ④ restore   |    |
| (b) previous | ① former   | ② next      | 32 |
|              | ③ later    | ④ following |    |
| (e) enhance  | ① diminish | ② minimize  | 33 |
|              | ③ improve  | ④ lessen    |    |
| (f) prohibit | ① let      | ② endure    | 34 |
|              | ③ permit   | ④ forbid    |    |

**問 2** 文中 (c) as と同様の使い方をしているのは次のどれか？ 35

- ① You should do as you like.
- ② She works as a leader.
- ③ As the teacher entered the room, I was sitting on the desk.
- ④ I was absent from school as I had a bad headache.

**問 3** ( d ) の中に入る語は次のどれか？ 36

- ① By contrast
- ② As usual
- ③ Therefore
- ④ Even if

問 4 本文の内容に合致するものを次の①～⑩の中から三つ選び、番号で答えよ。ただし、解答の順序は問わない。

37 ・ 38 ・ 39

- ① ChatGPT は、開始直後は使い方がわかりにくかった。
- ② 2025 年、ChatGPT 利用者は日本では 400 万人を超えた。
- ③ 2024 年、日本の ChatGPT ユーザーは前年度の倍になった。
- ④ 全国大学生生活協同組合連合会の調査によると半数以上の学生が ChatGPT を使用したことがあると答えている。
- ⑤ ChatGPT により学生の思考能力が低下している。
- ⑥ 調査に参加した学生は、ChatGPT は課題の質の向上に貢献していると述べている。
- ⑦ 教員は ChatGPT の使用を禁止すべきだと訴えている。
- ⑧ 教育の場において ChatGPT との共存を考えるべきである。
- ⑨ 情報教育は ChatGPT を利用して行うべきである。
- ⑩ ChatGPT への過度の依存が上昇している。

## 3. 数 学

※数学の問題は、全 4 ページです。

# 数 学

1

以下の各問いに答えよ。

- 1)  $(2x + 1)(4x^2 - x + 3)$  を展開したものは  ア  $x^3$  +  イ  $x^2$  +  ウ  $x$  +  エ である。
- 2) 図 1 において,  $AP = 2$ ,  $BP = 3$ ,  $CP = 6$  とするとき,  $DP$  の長さは  オ である。

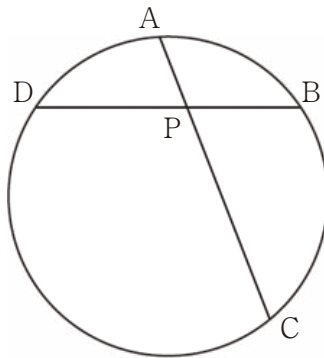


図 1

- 3) 2 次関数  $y = -3x^2 - 12x + 5$  において,  $x$  の範囲を  $-3 \leq x \leq 3$  とするとき,  $y$  の最大値は  カキ であり, 最小値は  クケコ となる。
- 4) 表 1 はあるチェーン店の 10 店舗における「おまかせ弁当」の販売実績である。「おまかせ弁当」の販売数の平均値は  サシ. ス 個, 販売数の中央値は  セソ 個である。  
この弁当の販売状況を示す箱ひげ図を **記述式解答用紙** に作成せよ。ただし, 箱ひげ図を作図するにあたっての注意事項は解答用紙に示した通りであり, 特に記載されていない事項については自由に判断してよい。

表 1

| 店舗名 | A | B  | C | D  | E  | F  | G | H  | I  | J  |
|-----|---|----|---|----|----|----|---|----|----|----|
| 販売数 | 9 | 14 | 8 | 30 | 25 | 25 | 6 | 10 | 27 | 10 |

2

図2のように、道路が碁盤の目ようになった街がある。この街の点Aから点Bへの最短経路を求める。このとき以下の問いに答えよ。

- 1) 点Aから点Bまでの最短経路は  通りである。
- 2) 点Pを通り点Aから点Bまで移動する最短経路は  通りである。
- 3) 点Qを通らずに点Aから点Bまで移動する最短経路は  通りである。
- 4) 点Qの周囲4ブロックが再開発され、図3のように大きな商業施設がつくられた。この中は通り抜けできないとした場合の、点Aから点Bまでの最短経路は  通りである。
- 5) さらに再開発が進み図4のように点Pの周囲にも大きな商業施設がつくられた。どちらも、通り抜けが出来ない場合の、点Aから点Bまでの最短経路は  通りである。

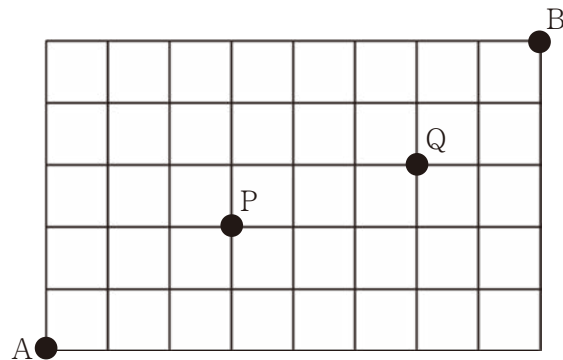


図2

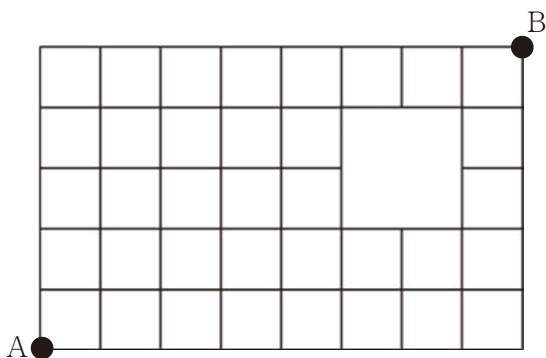


図3

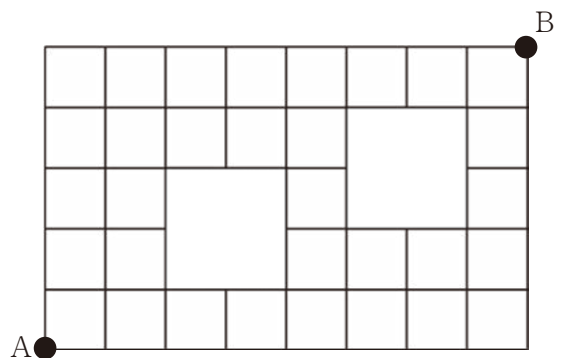


図4

**3**  $\sin \theta + \cos \theta = \frac{\sqrt{15}}{3}$  であるとき、以下の値を求めよ。但し  $\theta$  の範囲は  $45^\circ \leq \theta \leq 135^\circ$  とする。

1)  $\sin \theta \cos \theta$  は、 $\frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}$  である。

2)  $\sin \theta - \cos \theta$  は、 $\frac{\sqrt{\boxed{\text{ウ}}}}{\boxed{\text{エ}}}$  である。

3)  $\sin^2 \theta - \cos^2 \theta$  は、 $\frac{\sqrt{\boxed{\text{オ}}}}{\boxed{\text{カ}}}$  である。

4)  $\sin^2 \theta \cos^2 \theta$  は、 $\frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}}$  である。

5)  $\sin^2 \theta$  は、 $\frac{\boxed{\text{ケ}} + \sqrt{\boxed{\text{コ}}}}{\boxed{\text{サ}}}$  である。

4

以下の文章を読んで問いに答えよ。

菓子職人がおとぎ話の森で、お菓子の家の修復の仕事をするようになった。設計図はあるものの、一部の寸法しか記載されていないため、それぞれの作業で必要な値を求める必要がある。

- 一つ目の仕事は屋根の上にある「飾り」の修復だった。設計図によると、「飾り」はすべてがチョコレートでできていて、正六角錐の形をしている。正六角錐の底面は、向き合う辺の間の最短距離が6 mで、正六角錐の高さは9 mであった。チョコレートの準備のため、「飾り」の体積を求めたところ、 $\boxed{\text{アイ}} \sqrt{\boxed{\text{ウ}}} \text{ m}^3$ であった。
- 正六角錐の「飾り」の側面は防水のために特殊な飴でコーティングされている。コーティングがされている部分の面積は  $\boxed{\text{エオ}} \sqrt{\boxed{\text{カキ}}} \text{ m}^2$ である。
- 二つ目の仕事は犬小屋の屋根の修復であった。屋根の素材として与えられたのは1辺の長さが2mの立方体のスポンジケーキであった。互いに隣り合わない3つの頂点を通る面でケーキを切ると、切断面を底面とする正三角錐ができる。この正三角錐の底面の面積は  $\boxed{\text{ク}} \sqrt{\boxed{\text{ケ}}} \text{ m}^2$ 、体積は  $\frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}} \text{ m}^3$ であった。
- 犬小屋は四方を1mの高さの壁に囲まれている。その壁の上にスポンジケーキで作成した正三角錐の屋根を乗せると、犬小屋の高さは  $\frac{\boxed{\text{シ}} + \boxed{\text{ス}} \sqrt{\boxed{\text{セ}}}}{\boxed{\text{ソ}}} \text{ m}$ になる。